

Bridge Asia Japan BAJ

認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

年次報告書

2012年1月1日～12月31日

2012年度



2013年5月31日 発行

2012年度 年次報告書

(2012年1月1日～12月31日)

もくじ



2012年をふりかえって	3
BAJのめざすもの、プログラム	3
ミャンマー事業報告	4
プロジェクトマップ	
Ⅰ ラカイン州北部の地域開発事業	5
(1) 車両など機械類の整備	
(2) インフラ整備	
(3) シェルター建設	
(4) 学校建設	
Ⅱ 中央乾燥地域の生活用水供給	6
(1) 深井戸の建設	
(2) 井戸の修繕	
(3) 人材育成・ローカルメンテナンスチームの支援	
Ⅲ 南東国境の給水整備	7
(1) 事業の進捗状況	
ベトナム事業報告	8
プロジェクトマップ	
Ⅰ ホーチミン市での事業	9
(1) 視覚障害児者支援(ティエンアン盲学校)	
(2) 子ども教室(ばじ子)の運営	
(3) ゴイサオ学校環境学習・化学工作活動	
Ⅱ フェ市の生活改善事業	10
(1) 教育支援事業	
(2) 環境教育・環境改善事業	
① 環境教育	
② ゴミの分別活動	
③ 安全な野菜の生産と流通	
④ 家畜飼育農家の環境改善と収入向上	
⑤ 農村エコツアー	
⑥ 簡易浄化槽の設置	
(3) 支援メガネ配布事業	
東京本部事業報告	12
Ⅰ 資金の調達	13
(1) 助成金や会費、寄付など	
(2) 東京事業	
① 東日本大震災復興支援事業	
② フルクル事業	
Ⅱ 広報活動	14
(1) 情報発信	
① 主催報告会・イベント・講演・講義	
(2) ボランティア受入れ	
Ⅲ 総務・管理	16
(1) 職員の研修	
(2) 受賞	
Ⅳ 海外事業の支援	17
(1) 物資の調達	
(2) 専門家の派遣	
(3) ローカルスタッフの招へい研修	
会計報告	18

2012年度をふりかえって

会員の皆さまをはじめ、当団体の活動についてご支援やご協力をいただいた皆さま、誠にありがとうございました。本年も皆さまに年次報告書をお届けいたします。

2012年は、ミャンマーが脚光を浴びた年となりましたが、BAJが活動していますラカイン州マウンドーでは、民族衝突が大きな騒乱へと拡大し、現在もまだその爪痕が深く残っています。BAJでは家を失った人たちのためのシェルター建設を急ピッチで進めています。

ベトナムのフエ市では、小規模農家と一緒にリサイクル農業に取り組み、少しずつですが収入の向上をめざして試行錯誤しながら活動を進めています。

東京本部も古着のリサイクルによる広報活動を進めており、こちらも少しずつですがBAJの支援者を増やしています。

2013年は設立20周年を迎えます。ミャンマーとベトナムの活動について、新たな気持ちで取り組んでまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



特定非営利活動法人
ブリッジ エーシア ジャパン
理事長 根本 悦子

BAJのめざすもの

- 1 技術習得や能力強化の機会を提供します
- 2 収入向上を支援します
- 3 地域発展のための環境基盤を整備します
- 4 環境を守り啓発を進めます

プログラム

- 1 帰還民や貧困層を対象に技術訓練の実施
- 2 住民参加を促しながら、OJTによるインフラ整備
- 3 最貧困層女性のエンパワメント
- 4 学ぶ機会に恵まれない青年を対象に職業訓練
- 5 生活用水を確保するための井戸建設と衛生教育
- 6 子どもたちに理科教育や環境教育の実践
- 7 未就学児の就学を進め、子どもたちの学習支援
- 8 小規模農家を対象に伝統農産物の復活と販売促進
- 9 都市と農村をつなぐ循環型農業の推進
- 10 障害をもった青少年の社会参加による自立支援



MYANMAR

「タナカ」という特殊な木をすりおろした汁を顔や腕に塗っている少女たち。都市部では見られなくなっています

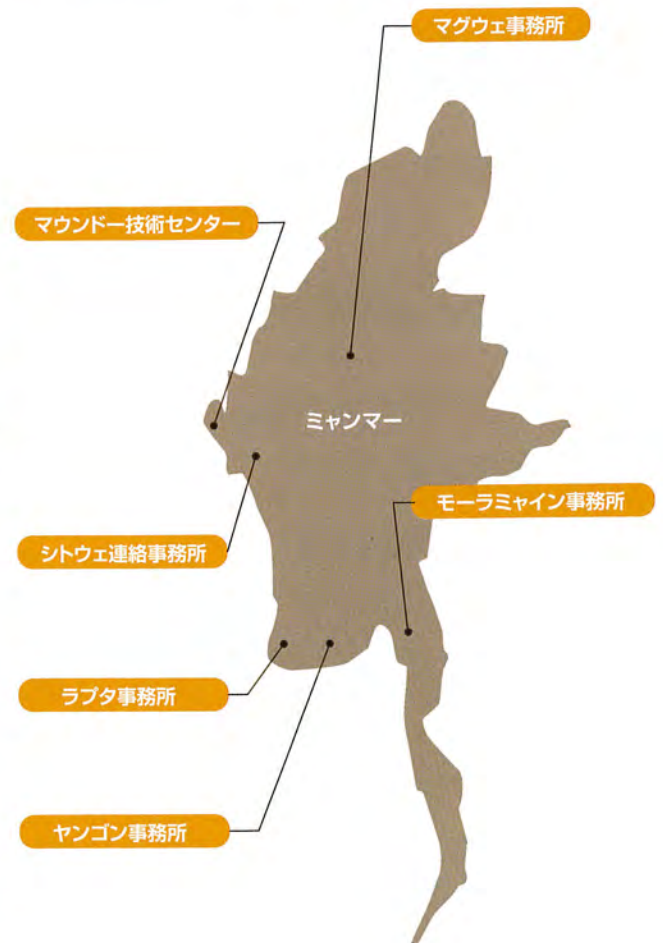
海外支援活動事業

ミャンマー

2011年3月にテインセイン氏が大統領に就任し、多くの改革を進めています。なかでも「労働組合法の制定」によりストライキやデモが容認されるようになり、また「検閲の撤廃」によりメディアの動きが活発化しています。さらに「外国投資法の緩和」や「多重為替の廃止」により、経済改革へも大きく踏み出しています。11月のクリントン米國務長官の訪緬以降、各国政府要人や多国籍企業が相次いでミャンマーを訪問しています。2012年に入り、日本政府もいち早く動き、4月にはODA再開を表明しました。BAJミャンマーも少なからず影響を受け、車両や携帯電話などの価格は低下したものの、家賃や資機材の値上げ、交通渋滞による時間の浪費、NGOに対する許可や承認の遅れなど、計画通りに事業を進めることが難しい1年でした。

さらに6月8日、BAJワークショップがあるラカイン州マウンドーを起点に、イスラム教徒とラカイン族の住民間で大きな衝突があり騒乱が拡大したため、ワークショップを一時閉鎖せざるを得ませんでした。8月からは車両整備事業を再開し、9月からは日本財団の資金による学校建設事業を開始しました。また騒乱で多くの家が焼失したため、UNHCRの要請で2012年は80棟の恒久的シェルターを建設し、2013年度も引き続き140棟以上の建設を進めています。このため、今後はラカイン州での事業はシトウェ事務所を拠点に進めていきます。

南東国境事業はこれまでUNHCRの資金で進めてきましたが、予算をラカイン緊急に割くことになり、BAJはモーラミヤイン事務所を残してトングーとベイの2つの事務所を閉じています。



I ラカイン州北部の地域開発事業

バングラデシュとの国境地域にはイスラム教徒の人たちが住んでいる地域があり、国籍がないため不安定な生活をしています。そのため不利になるようなきっかけがあると、バングラデシュへ難民となって逃げることも度々起きています。1991～92年にかけては25万人以上の大量の難民がバングラデシュに流出し、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が中心になって難民の帰還事業にあたりました。BAJはUNHCRの要請を受けて1995年にラカイン州のマウンドーに入り、難民の帰還事業の実施団体として、帰還民を対象に技術訓練やコミュニティ開発活動、地域の基盤整備事業を進めてきました。

ところが2012年6月8日、ラカイン州に昔から住んでいる仏教徒のラカイン族と、イスラム系住民の間で大きな衝突があり非常事態宣言が出ました。数百人が亡くなったり、六千世帯以上の家が焼き打ちにあい、11万人以上の人国内避難民として苦しい生活をしています。BAJも活動の一部を残して事務所を閉鎖し、UNHCRの要請を受けて家を失った人たちが住む耐久性のあるシェルターの建設を進めています。

(1) 車両など機械類の整備

【資金：国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）】

BAJはラカイン州で活動する国連機関や国際NGO、ミャンマー政府機関の車両、発電機、船外機などの修理や整備を行いながら、地元の青年を対象に技術研修などを進めました。暴動後に事務所を閉鎖しましたが、8月に車両など機械類の整備事業を再開しています。

(2) インフラ整備

【資金：国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）】

UNHCRによる社会開発プログラムのための拠点となるコミュニティセンター4棟の修繕事業を進めていましたが、暴動後は停止せざるを得ませんでした。2013年に入ってようやく事業を再開しています。

No	プロジェクト	位置	開始年月日	完了年月日	進捗	資金
1	チンチャウン高校修繕	マウンドー北部	2011年12月13日	2012年2月29日	100%	UNHCR
2	ガンチャウン・コミュニティセンター修繕	マウンドー北部	2012年5月15日		50%	UNHCR
3	チャーガウンタウン・コミュニティセンター修繕	マウンドー北部	2012年5月24日		40%	UNHCR
4	アウンセツピン・コミュニティセンター修繕	マウンドー北部			0%	UNHCR

(3) シェルター建設

【資金：国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）】

6月の騒乱以降、国際機関や国際NGOのスタッフは一時マウンドーから退避しました。落ち着きを取り戻した10月に入ってUNHCRの要請があり、マウンドー南部モーヤワディ村に耐久性のあるシェルターの建設を11月1日から開始しました。2013年1月2日には計画通り80棟の建設を完了しました。

建設では、被災したモーヤワディ村の住民と、村外から集められた労働者（ラカイン人、ビルマ人、ムスリム）約160名が参加して、各機関と調整しながら、現場スタッフの尽力により、ほぼ工期通りの完成でした。完了直後には、UNHCR、ナタラほか政府関係機関の視察を受け、BAJの建設技術を高く評価していただきました。



2ヶ月間で80棟のシェルターを建設

(4) 学校建設

【資金:日本財団】

2012年に入って日本財団よりラカイン州での学校建設の打診があり、検討した結果受けることを決めましたが、6月に騒乱が起きて非常事態宣言が出され、マウンダーのBAJワークショップの一時閉鎖もあり、シトウェにあらためて事務所を開設して本格的に学校建設に取り組むことができたのは10月に入ってからでした。

2013年1月末に2校舎の建設が完了し、2月現在パウトーとボナジュンの4校舎の建設を進めています。完成した2校では、村人が自主的に敷地内に植樹したり、フェンスの費用を集めるなど積極的に参加しています。また、各村の建設現場では、村の若者30名がOJTとして建設に参加し、技術を習得しています。

■村の各校での建設作業の2013年2月の進捗状況は以下の通りです。

No	郡名	地域名	サイズ・建設タイプ	施工開始日	進捗
1	シトウェ	チャウテー村	60fx30f・鉄筋コンクリート支柱構造	2012年10月6日	100%
2	シトウェ	ティンタン村	110fx30f・鉄筋コンクリート支柱構造	2012年10月7日	100%
3	パウトー	第1区	90fx30f・避難所機能付き鉄筋コンクリート構造	2012年11月8日	80%
4	パウトー	ユワチャンジー村	90fx30f・避難所機能付き鉄筋コンクリート構造	2012年12月8日	45%
5	ボナジュン	チェトウ村	60fx30f・避難所機能付き鉄筋コンクリート構造	2013年1月17日	25%
6	ボナジュン	アウミヤレイ村	60fx30f・避難所機能付き鉄筋コンクリート構造	2013年2月13日	

II 中央委乾燥地の生活用水供給

2011年末、活動拠点をマンダレー管区チャウバドンからマグウェ地方マグウェ郡に移し、事業を軌道に乗せる業務を進めました。9月にカウンターパートである国境省村落給水局との年次報告会をネピドーで行い、これまでの実績の報告と今後の協力関係を確認しました。この間、申請していた日本NGO連携無償資金協力の採択に時間を要しましたが、12月末に契約することができました。

水供給事業では、継続して支えていただいているワタベウェディング様ほかに、新たに日立シンガポール様、さらに国際NGOのプランインターナショナル様からの寄付により2013年は計10本程度の井戸建設を予定しています。

(1) 深井戸の建設

【資金:ワタベウェディング様、渡部隆夫様、日立シンガポール様、自己資金】

■2012年度に行った深井戸の掘削建設事業は以下の通りです。

No	村名	郡名	寄付者	掘削		揚水量 毎時/ガロン	給水槽 ガロン	進捗
				開始	終了			
110	イェチョー村	マグウェ	ワタベウェディング様	1/17/12	3/9/12	2,250	5,000	完了
111	チッソブウェ村	マグウェ	渡部隆夫	3/12/12	4/29/12	2,250	5,000	完了
112	タモンピン村	ナムマウク	ワタベウェディング様	6/27/12	9/7/12	1,800	3,000	完了
113	ジョーヤカン村	チャウク	日立シンガポール	9/14/12	10/11/12	2,250	5,000	完了



さまざまなデータを取りながら、慎重に作業を進めていく

(2) 井戸の修繕

【資金:ワタベウェディング様】

■2012年度に行った井戸の修繕事業は以下の通りです。
下記以外にマグウェ給水局に協力しました。

村名	郡名	寄付者	揚水量/時間/ガロン		終了日時	修繕方法
			修繕前	修繕後		
ニャウピンター村	チャウ郡	ワタベウェディング様	500	900	10/2/12	スクリーン清掃・パーツ修理
ババエイ村	マグウェ郡	ワタベウェディング様	0	2,250	8/21/12	ポンプ回収
タッバイサン村	イェンガヤ郡	ワタベウェディング様	700	1,800	11/27/12	パーツ交換
シャンコーン村	ナムマウク郡	ワタベウェディング様	0	1,500	12/18/12	パーツ交換



危険な作業もあるのでチームワークが大切

(3) 人材育成・ローカルメンテナンスチームの支援

【資金：ワタベウェディング㈱、自己資金】

2008年に再結成したローカルメンテナンスチームとは、井戸の簡単な修繕ができる、村人で構成した修理屋さんのごことです。BAJが井戸を設置した村では井戸の日常的な維持管理をするポンプ操作者を決めてもらい、研修で簡単な修繕ができる程度の訓練をしています。さらに希望者には上級コースの研修を行い、村人によるメンテナンスチームをつくりました。

2011年4月からは、チームの技術的・経済的な自立を目指して、機材や道具類の整備、運営のための規則などをつくって、村からの修理の注文を受けるようになりました。BAJはグループのモニタリングを行いながら必要な支援を行っていますが、2012年になって注文が増え、独自の経営ができるようになってきました。チームの名前を「スエトライゴン」(友情の三脚)と名付けて、村の井戸修繕のた

めに毎日動いています。

三脚とは、修繕では井戸からロッドを引き上げるために三脚が必要で、彼らは自分たちでその三脚を制作したという経緯があります。



つりあげたパイプを堀削した孔におろしていく

Ⅲ 南東国境の給水整備

タイと国境を接する南東国境のカレン州、タニンダリー管区、モン州は、タイ側に数カ所の難民キャンプがある南北1,500キロメートルにおよぶ地域です。BAJは2004年からUNHCRの要請を受け、帰還民を想定してこの地域に新規給水施設、既存井戸の修繕、衛生講習会などの事業を行ってきました。

2012年度の事業として、①28箇所に新規給水施設を建設し、延べ12,728人に給水できるようになりました。②45箇所の既存井戸の修繕を行い、延べ14,744人が給水できるようになりました。③井戸1本当り平均250人です。④毎日1人当たり平均24リットル以上の安定した水供給ができるようになりました。

しかし2013年については、UNHCRの資金調達の悪化などで予算の削減に伴い、南東国境での事業の縮小が決まりました。これを受けてBAJは、2013年1月にはモーラマイン事務所を残して、トンゲーとバイクの2事務所を閉鎖しています。

(1) 事業の進捗状況

【資金：国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)】

■2012年に実施した給水施設建設の状況は以下の通りです。

地区名	新規給水施設建設		既存井戸修繕	
	完成	未着手	完成	未着手
カレン州 Kayin State	10	2	25	0
モン州 Mon State	8	0	3	0
タニンダリー管区 Tanintharyi Division	10	0	17	0
小計	28	2	45	0
事業予定合計	30		45	

その他に、井戸掘削の前段階として45箇所の地質調査と、4箇所のポイントで電気検層調査を行いました。水供給施設の維持管理講習会としてエンジンやポンプの操作とメンテナンスや、水管理委員会の役割について研修しました。衛生知識の講習会では、村の20名をピアエデュケーターとして選び、衛生キットを渡して研修を行いました。機能が悪いことが分かり、5名をリーダーとしてBAJとの連絡を頻繁に行うようにしました。また12月に東京事務所の水質専門家を派遣して、BAJスタッフ8名を対象に検査方法などの研修を行いました。



VIETNAM

フエ市の水上生活者への支援では、共同の水道やトイレを設置して、生活改善に取り組みました

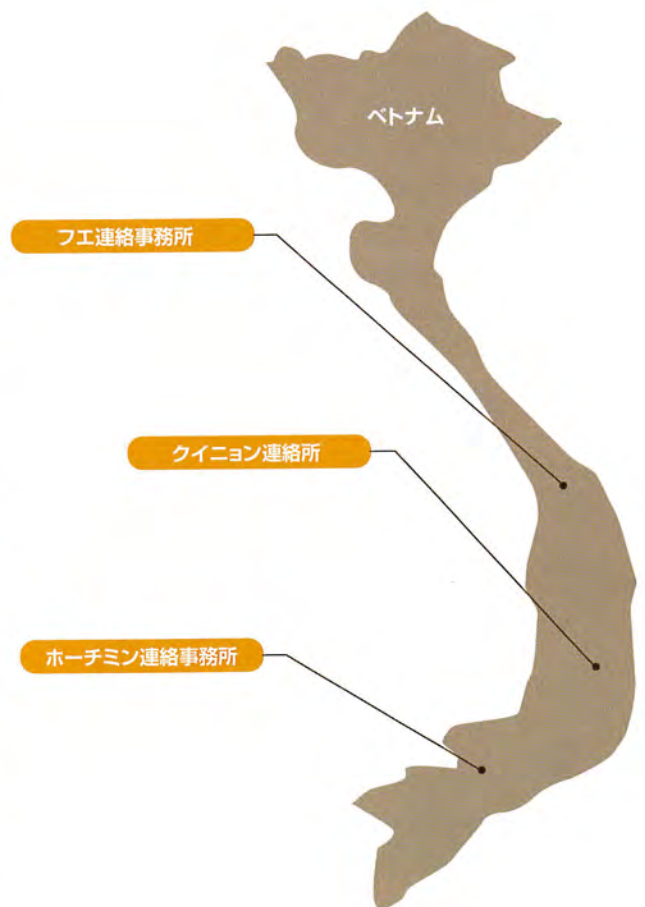
海外支援活動事業

ベトナム

ベトナムは他の東南アジア諸国同様、好景気に見えていますが、強力な金融引き締め政策でインフレの抑制を行い、その結果国内の需要は冷え込んで景気は必ずしも良い状況ではないようです。そのようななかで3月に国際NGOに対する政令により、これまでの「活動許可書」を「活動登録書」に切り替える必要が出てきました。国際NGOを管理する人民援助調整委員会(PACCOM)に日本の青年海外協力隊が登録されたことで有効期限を1年から3年に延長する必要から、煩雑にはなったもののこれまでの不透明な手続きが明確になりました。

ホーチミン市では2009年から子ども教室(BAJIKO教室)の運営を開始し、さらに小学校や中学校での科学工作・環境学習の授業への講師派遣へと発展してきました。2012年になってゴイサオ学校(中高一貫教育学校)では、BAJの授業が高く評価され、高校最終学年をのぞく6学年すべてで授業を実施しています。

フエ市のトゥイスワン地区では、家畜糞尿処理のためのバイオガスダイジェスターの設置を進めながら農家のグループをつくり、グループを中心に収入向上プログラムとして産直提携・加工品開発・農村観光開発のための準備を進めました。またトゥイビエウ地区では、地区の子どもたちを中心に農家を訪問して野菜や暮らしの話を聞き、地域の伝統や魅力を発見してそれを都市部の子どもたちに伝える活動などを進めました。



I ホーチミン市での事業

(1) 視覚障害児者支援(ティエンアン盲学校)

【資金: キヤノン㈱、輝けアジアの子ども基金】

ティエンアン盲学校は寮制で、28名の視覚障害児者が生活をともにしながら学習を進めています。

小学校家庭の児童には、同盲学校出身の教員免許を持つ視覚障害者が先生になって学習を進め、中学・高校・大学は外部の教育機関に通います。また盲学校では音楽、スポーツ、コンピュータ、マッサージなどの学習を進めて、選択の幅をひろげてさまざまなことに挑戦することができます。

BAJは2012年に28名の生徒を対象にサポートを行いました。奨学金の給付のほかに、10名はマッサージ技術の習得に挑戦し、さらに、これまでに6名が大学在学中か卒業生となりました。

(2) 子ども教室(ばじ子)の運営

【資金: 武田資金】

2009年から開始した「ばじ子教室」は、2012年は小学校1年から4年生までの25名が参加しました。先生は、BAJのスタッフのほかに、大学生や大学院生です。平日の夕方からと土曜日の日中に、また学校の夏休み中は火曜日から土曜日の日中に授業を行いました。

(3) ゴイサオ学校環境学習・科学工作活動

【資金: ㈱LIXIL、武田資金】

私立ゴイサオ学校は中学・高校の一貫校で、卒業後は海外留学する生徒も少なくありません。BAJは2010年9月からゴイサオ学校で環境学習と科学工作の授業を行ってきました。2012年は6年生から11年生までの18クラスを対象に授業を行いました。先生は「ばじ子教室」と同様に、BAJスタッフのほかに、大学生や大学院生が非常勤講師として授業を進めました。夏休み期間中(6～8月)は、新6年生を対象に特別クラスの授業を行いました。

■授業の主な内容は以下の通りです。

- 住んでいる地域や田舎についての紹介
- 住んでいる地域の地図作り
- 身の廻りの水はどこから来るのか
- 水をどのように使うか
- 水の汚れについて
- ゴミの問題
- 売れるゴミ、売れないゴミ
- 日本で起きた公害問題
- お年寄りから学ぶ生活の知恵
- ロゴマークを作る
- 世界各国の文化
- 世界の建築の模型作り
- 浮力の実験
- 電気の実験
- 光の実験
- 音の実験



BAJIKOの子どもたちは工作が大好き



ゴイサオ学校の生徒さんから元気な質問が出ました

II フェ市の生活改善事業

王宮や王墓のある古い町として観光に力を入れている都市ですが特別な産業もなく、貧困地域が多い都市でもあります。BAJは2002年からフェ市人民委員会やフービン地区、フォンロン地区の地区人民委員会と協力して環境改善活動を進めてきました。2012年は、トゥビエウ地区、トゥイスワン地区の人民委員会と協力して、リサイクル農業や環境学習活動を進めています。

(1) 教育支援事業

【資金・株LIXIL、キャノン株、地球環境基金、輝けアジアの子ども基金、エコポイント】

フービン地区の水上生活の住民が移転したパン工房地域とフォンソー地区の集合住宅で実施してきた補習・絵画クラスについて、2012年は6月まで実施して終了しました。トゥビエウ地区とトゥイスワン地区では継続して実施しています。9月からは新しくトゥティエンフエ省工アンディエン郡シア町アンザー集落でも開始しています。

■各地区の補習・絵画クラスの状況は以下の通りです。

場所	実施状況	対象	実施日/週
フービン地区パン工房地域	2012年6月終了	3~5年生 12人	日曜日
フォンソー地区集合住宅	2012年6月終了	3~6年生 13人(元フービン地区第14地区やビーザ地区の水上生活地区)	水曜日
トゥビエウ地区	継続中(絵画クラス)	小学2年生~中学2年生 20人	日曜日
トゥイスワン地区	継続中(絵画クラス)	小学1年生~中学3年生 15人	土曜日
クアンティエン郡シア町アンザー集落	2012年9月開始(絵画クラス)	小学1年生~小学4年生 8人	隔週金曜日

(2) 環境教育・環境改善事業

【資金・株LIXIL、キャノン株、地球環境基金、輝けアジアの子ども基金】

① 環境教育

フービン地区、トゥビエウ地区、トゥイスワン地区の補習・絵画クラスの子どもたちに環境教育や地域を知ってもらう活動をしました。またトゥイスワン地区のグエンティミンカイ中学校の1年生を対象に9月から12月まで毎月2回、環境の授業を行いました。



稲刈りも友だちみんなとやると楽しい

② ゴミの分別活動

トゥイスワン地区第1住民小区の住民約20世帯と話し合い、子どもたちと一緒に8月からゴミの分別活動を週1回行いました。リサイクル可能なゴミはゴミ買い取り業者に売って、地域の環境改善に使う予定です。

③ 安全な野菜の生産と流通

トゥビエウ地区では、8月25日・26日に「トゥビエウ・フェスティバル」を開催し、地域で採れた野菜の紹介と販売をしたり、子どもたちの工作の作品展示をして活動を紹介しました。12月からは、フェの野菜をホーチミン市の消費者に紹介して、希望する人には「おいしい食べ方」と一緒に野菜を送る活動もしています。

④ 家畜飼育農家の環境改善と収入向上

トゥイスワン地区の家畜飼育農家を対象に、環境汚染対策と収入向上を目指して、バイオガスダイジェスターを設置し、副産物として採取したガスを燃料にしたり、液肥で有機栽培を行うなどリサイクル農業を実践しています。2011年8月から開始して2012年末に25世帯まで増え、農家グループとして畜産物を消費者に直接販売する提携を始めています。



トウモロコシがこんなに収穫できた

⑤農村エコツアー

地域の環境や伝統的な野菜栽培などを保全し地域にある宝物を探そうと、トゥイビエウとトゥイスワン地区の農家グループを中心に「農村エコツアー」を組み立てて試行錯誤しています。例えば、農家を訪問して一緒に料理をしたり、あるいは特産物の加工品を創作して販売所を設置しました。また地域にある観光スポットのお寺や遺跡、伝統工芸工房などの地図を作成して設置したり、観光パンフレットなども試作しました。

⑥簡易浄化槽の設置

フエ市アンドン地区は製粉・製麺所が多い地域で、工場からの排水垂れ流しが問題となっていました。BAJでは2カ所の工場に簡易浄化槽を設置して、排水についての観察を続けて排水中にふくまれる成分や排水量を特定し、2012年3月に浄化槽の設置を完了しました。



スタッフも子どもたちにアドバイスしながら見守ります



トゥイビエウ地区でBAJIKO教室の野菜の絵の紹介

(3)支援メガネ配布事業

【資金・日本予防医学協会】

日本予防医学協会では、国内で中古メガネの寄贈を受けており、ベトナムでの配布を希望されたため、BAJが配布のお手伝いをしました。2012年1月3日～6日までの4日間で、フエ市トゥイビエウ地区、フーヴァアン郡ヴィンハー地区・ヴィンタイ地区、フォンチャー郡フオンスワン地区、フーロック郡ヴィンジャン地区の6箇所、眼鏡の配布を実施しました。日本予防医学会から3名の専門家が参加して、検眼、眼鏡の選定・調整を行ったうえで、一人ひとりの状態にあわせた眼鏡を調整して、全体では256名に配布しました。



トゥイビエウ地区の子どもたちがレポートを書く…。
「なんて書いたの？」



住民も参加してバイオガスダイジェスターの設置作業



海外駐在員の一時帰国にあわせて行う報告会は、日本の支援者にとっては唯一の貴重な現場報告です

国内活動事業

東京本部

2012年は、ミャンマーの民主化・自由化政策に伴い注目が高まり、BAJでは「ミャンマーの今を知る・連続セミナー」を3回にわたって開催し、延べ162名の参加を得ました。新規で企業の参加者が多く、新たな支援者との出会いがあり一定の成果を得ることができました。

資金調達については、2012年度も苦戦を強いられましたが、新たな事業を立ち上げることもできました。しかしドナーの傾向として管理費(オーバーヘッド)の削減を要求されることが多く、そのため職員の同意を得て2012年10月から賃金カットを実施しました。2013年4月からは目標管理とともに新たな賃金体系を導入する準備を進めました。

東北復興支援活動については、岩手県大船渡市「さんさんの会」の資金的な支援事業を10月に終了しましたが、運営に必要な会計や広報などについての研修を行いました。岩手県大槌町「おらが大槌夢広場」の事業については、2013年5月までの支援の延長となりました。

古着のリサイクル事業として開始した「フルクル」事業については、広報に力を入れた結果順調に伸びており、新たな支援者の開拓についても少しずつですが成果をあげることができました。

I 資金の調達

(1) 助成金や会費、寄付など

会員やサポーター(輝けアジアの子ども基金・まるごとサポーター)の新規加入者が、少しですが増えています。

■会費と寄付先を指定した金額は以下の通りです。

	会費・BAJ寄付・まるごと	ミャンマー	ベトナム	東北支援	合計
国内	3,752,045	14,776,281	3,373,146	1,958,164	23,859,636
海外	153,527	6,809,198	7,539	996,625	7,966,889
合計	3,905,572	21,585,479	3,380,685	2,954,789	31,826,525

■プロジェクト地域ごとの主な資金調達先は、以下の通りでした。個人の方からのご寄付については、個人情報保護の観点から割愛させていただきます。

事業	機関・団体名
ミャンマー	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、三井住友銀行ボランティア基金、日本財団、ワタベウェディング株式会社、渡部隆夫(ワタベウェディング)、ジャパン・プラットフォーム(JPF)、外務省NGO連携無償資金協力、プラン・ジャパン、日立シンガポール株式会社、株式会社ローソン
ベトナム	武田基金、株式会社LIXIL、環境再生保全機構・地球環境基金、輝けアジアの子ども基金、キャンノ株式会社、社団法人環境パートナーシップ会議(EPC)、株式会社エイチ・アイ・エス
東北(岩手)	特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)、三菱商事・東日本大震災復興支援助成金、Give2Asia
BAJ(東京)	国際航業株式会社、ワタベウェディング株式会社、株式会社大木組、株式会社ピース・イン・ツアー、学校法人城西国際大学、岐阜長良川ロータリークラブ、WAVE、株式会社ピロタス、株式会社ダイナックス、特定非営利活動法人ケアセンターやわらぎ、株式会社エヌエルシー、株式会社ソフコンサルタント、有限会社峰秀興業、ブリッジーズ有限公司、キャピタル工業株式会社、株式会社日本開発サービス、久光製薬株式会社、株式会社国際開発アソシエイツ、住友商事株式会社、株式会社絆郷、かめのり財団、社団法人環境ビジネスウィメン

(2) 東京事業

■2012年度は募金キャンペーンを以下の通り実施しました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

タイトル	内容	金額
ラカイン州緊急人道支援	6月8日を起点に起きたラカイン州の民族衝突事件では、6月13日にBAJ緊急声明を出して募金を開始し、ミャンマー政府国境省(DRD)を通じてラカイン州での救援物資の配給活動に活用されました。	1,409,064円 (2013年3月現在)
夏募金	「子どもとおとなでつくる“なつかしい未来”」のテーマで6月1日～8月31日に実施し、ネットやイベントを通じてベトナム活動のアピールをしました。	107,000円
冬募金	BAJ全体への協力をお願いした冬募金(2012年11月～2013年2月)では、ホームページや手紙で呼びかけを行いました。	372,000円 (2013年3月現在)
小さな図書館	BAJ創立20周年記念事業としてミャンマーの小学校に図書館の贈呈プログラム(1口5万円、2口で1つの棚)を2013年12月から開始しており、11月まで継続して募集しています。	350,000円 (2013年3月現在)

1) 東日本大震災復興支援事業

BAJは国際協力団体ですが、東日本大震災について困難ともいえる状況にあり、緊急救援として被災地の後方支援を開始することを決めました。2011年5月からは岩手県の盛岡市、大船渡市、陸前高田市、さらに大槌町で、地元のグループの支援活動を実施しました。

2012年度も引き続き復興支援事業として、岩手県盛岡市、大船渡市、大槌町で支援事業を実施しました。各事業地の内容は以下の通りです。

① さんさんの会

大船渡市「NPO法人 さんさんの会」は、震災後に立ちあがった地元のグループで、BAJはJPF(ジャパンプラットフォーム)の助成金を活用した第2フェーズとして、配食を中心としたコミュニティ活動事業を、2月11日～10月12日の期間で支援しました。また、9月22日に覚書を交わし、NPO法人として必要なスキルの研修を2回にわたって実施しました。



さんさんキッチンの
営業許可証がとれました

② おらが大槌夢広場

壊滅的な被災を受けた大槌町では、2011年7月に立ちあがったグループ「おらが大槌夢広場」に対し、BAJはアメリカの助成財団Give2Asiaの助成金を活用して、2012年4月に多目的コミュニティスペースの「町方ドームハウス」の設置と、ハウス内で実施する地域住民向けのイベントやセミナーや生計向上のプログラムを支援しました。なお、この事業については2013年5月まで支援を延長しています。



大槌町に建てられたドームはコミュニティセンターとして大活躍

③SAVE IWATE

盛岡市「SAVE IWATE」では、被災者への救援物資の配送や相談業務を行っており、BAJは事業活動のために必要な車両について、三菱商事東日本大震災復興支援助成金を活用して車両の無償貸与を支援し、2013年2月には同団体に同車両を譲渡しました。

BAJは、2013年5月末までは、東北復興支援のプログラムを延長していますが、それ以降は本来の業務である国際協力事業に専心していきます。しかし、およそ2年半という期間に東北復興支援で築いた地元グループとの関係は、今後もことあるごとに協力を惜しむものではありません。

この間、多くの方々からご支援をいただきましたことに改めて感謝を申し上げます。

II 広報活動

BAJの事業を広く皆様に知っていただき、ご支援をいただくことはNGOとしての大切な事業であると考えています。そのために効果的な広報について、いつも試行錯誤していますが、今年は「認定ファンドレーザ」を取得したスタッフが活躍して、さまざまな広報の試みを進めました。

(1)情報発信

(BAJ通信・ホームページ・メールマガジン・Facebook)

ご支援をいただく方々とBAJの活動現場をつなぐ大切な機関紙「BAJ通信」について、2012年も引き続き隔月で101号～106号を発行しました。内容には、BAJが各地域で実施している事業の報告や東京で開催したイベントや報告会などの記事を掲載しました。

ホームページの大幅な改定はできませんでしたが、トップページの最新情報の更新や、各事務所からのブログを随時更新しました。

2012年2月に新支援者データベース(セールス・フォース)を開始し、3月からはBAJからの直接配信による「新BAJメールマガジン」を月2回発行しています。BAJならではのミャンマー情報やコラム、イベントやボランティア情報など、毎号最新のニュースを盛り込んで発信しています。読者数は昨年に比べて約3倍強の1700人を超えています。

2)フルクル事業

神戸の日光物産様からのご提案で、2011年より古着のリサイクルを開始しました。各家庭や職場で集めていただいた古着を、神戸の倉庫にお送りいただき、1キロ10円で買い取っていただきます。古着は、アジアやアフリカなどに運ばれてリサイクルされます。

この事業により、これまで国際協力に関心があっても、どうしたらよいか分からなかった主婦や高齢者などの支援者を発掘しています。また、職場や商店街、大学などで古着を集めてお送りいただくこともあり、次第に広がっています。大手の雑誌で紹介されたり、地方の社会福祉協議会に積極的に宣伝していただいたり、古着の送付先として定着しつつあります。

2012年度の1月～12月の倉庫受け取り分は、5,130箱で35,607.32キログラムでした。



大型店舗で開催された古着回収イベントでたくさんの古着が集まりました

①主催報告会・イベント・講演・講義

2012年はミャンマーに注目が集まっていたので、この機会をとらえてBAJならではの連続セミナー「ミャンマーの今を知る」と題して3月、6月、9月に各界の講師をお招きして開催し、新しい支援者を開拓しました。

■連続セミナーの内容は以下の通りです。

月日	テーマ	登壇者
3月17日	「地域の現状と課題—NGOの視点から」	竹久 佳恵 (AMDA社会開発機構) / 保健衛生事業 辻 富紀夫 (BAJ) / 難民および地域の現状
6月9日	「地域の経済—2つの視点」	小島英太郎 (JETRO) / ビジネス環境と日本企業の動向 栗村 康文 (BAJ) / 村落部の開発課題
9月15日	基調講演	高橋 昭雄 (東大東洋文化研) / 村から考える
	パネルディスカッション 「ミャンマーへの期待」	根本 悦子 (BAJ) / モデレーター 永石 安明 (オイスカ専務理事) 佐々山拓也 (外務省アジア大洋州局南部アジア部長) 府川 賢祐 (国際協力機構東南アジア・大洋州部長) 工藤 年博 (JETROアジア経済研究所主任調査研究員) 小島英太郎 (JETRO海外調査部アジア大洋州課長代理)

海外駐在員の帰国時に報告会や講演会、イベントを実施してBAJの広報に努めました。

■2012年の主な主催報告会とイベントは以下の通りです。

月日	内容	担当	場所
1月28日	おいしく覚えるミャンマー語	大須	レストラン・ミンガラバー
2月11日	横浜国際フォーラム2012 東日本支援座談会「みんなあずまっではなしっこすっべし」	高橋	JICA横浜
3月17日	「ミャンマーの今を知る」連続セミナー第1回	全員	女性就業支援センター
4月13日	BAJミーティングIn関西	高橋	大阪環境情報プラザ
4月14日	ミャンマー料理チャリティーランチ交流会	全員	レストラン・ミンガラバー
5月30日	ミャンマー・ラインタテで暮らす人々	木下	BAJ事務所
6月9日	「ミャンマーの今を知る」連続セミナー第2回	全員	代々木オリンピックセンター
6月23日	ベトナムおうちごはんDE国際協力	伊藤他	文京アカデミー向丘
7月7日	ベトナム・ミャンマー合同報告会	片山・森	環境パートナーシッププラザ
7月12日	大船渡・大槌・ベトナム/経験交流座談会	正治	おらが大槌夢広場
8月23日	ベトナムおうちごはん DE 国際協力ランタン作り	関口	渋谷コロパカフェ
8月27日	立教大学インターン報告会	全員	BAJ事務所
9月15日	「ミャンマーの今を知る」連続セミナー第3回	全員	日本財団
10月23日	さんさんの会スタッフ研修/金野・佐藤・小谷	高橋他	BAJ事務所
10月31日	ベトナム事業報告	片山	BAJ事務所
11月30日	BAJ交流会	正治	レストラン・ミスサイゴン



毎年恒例のグローバルフェスタではボランティアさんが中心です



男性もエプロンを着けて参加、ベトナムおうちごはんDE国際協力

■外部からの依頼による、あるいは申請して実施した主な講演やイベントは以下の通りです。

月日	内容	担当	場所
1月20日	おもちゃ美術館めぐりイベント	大須	東京おもちゃ美術館
2月2日	三井物産環境基金・助成財団交流会(～3日)	根本	仙台国際センター
2月4日	ファンドレイジング大会・ファンドレイジング協会	正治・山木	日本財団
2月8日	講演「ミャンマーの現状とBAJの活動」	東村	国際開発アソシエイツ
3月11日	かめま市民協働まつり	平田夫妻	栃木県まちなか交流プラザ
5月27日	栃木県「宇都宮ワールドフェスタ」出展	平田夫妻	宇都宮商工会議所
6月1日	SFファンドレックス研修報告会	山木	BAJ事務所
7月14日	環境ボランティア見本市	関口	地球環境パートナーシッププラザ
7月18日	三井住友銀行ボランティア基金報告会	大津	三井住友銀行本店
7月25日	環境ボランティア見本市2012	関口・高橋	地球環境パートナーシッププラザ
9月10日	絆サロン「BAJの活動」	根本	日比谷図書文化館
9月30日	宇都宮フェアトレードまつり	ドリン	栃木県バンビひろば
10月6日	グローバルフェスタ2012	全員	東京日比谷公園
10月16日	日本大学国際関係学部ゼミ「BAJの活動」	山木	日本大学三島校舎
10月20日	横浜国際フェスタ(～21日)	全員	横浜象の鼻パーク
10月22日	千早高等学校出張授業	山木	都立千早高等学校
11月4日	かめまワールドフェスティバル	平田夫妻他	鹿沼商工会議所アザレアホール
11月10日	東京おもちゃまつり(～11日)	伊藤・原他	東京おもちゃ美術館
11月28日	嘉悦大学公開講座「BAJの活動」	根本	嘉悦大学
12月7日	三菱商事クリスマスチャリティーバザー	関口・高橋	東京おもちゃ美術館

(2) ボランティアの受入れ

毎月第1水曜日午後7時と、第3土曜日午後1時から月2回、ボランティアやインターン希望者を対象に「BAJカフェ」として、お茶とお菓子をいただきながら、BAJの活動紹介と簡単な作業をお手伝いしていただき、スタッフとの交流を行いました。ボランティアさんは延べ255名、インターンとしては9名を受入れました。

Ⅲ総務・管理

(1)職員の研修

必要に応じて、情報収集、ネットワーク構築、研修を目的に、外部で開催される研修やセミナーに参加して職員のスキルアップに努めました。とくに2012年はJICA主催「組織力アップNGO人材育成研修」と、同じく「NGO長期スタディープログラム」では職員1名が11月～2013年2月までUNHCRフィリピンで研修を実施しました。

■参加した主な研修は以下の通りです。

月日	内容	担当	場所
2月3日	日本ファンドレイジング協会・ファンドレイザー講習	高橋	日本財団
2月15日	JANIC「NGOのための総務講座」	高橋	早稲田奉仕園
3月1日	NPOサポートセンター「Salesforce研修」	山木	NPOサポートセンター
3月16日	外務省インターンプログラム報告会	正治	JICA地球ひろば
	NPOサポートセンター・インターン報告会(高江洲)	大須	法政大学
4月5日	JANIC「管理職のためのメンタルヘルズ講座」	東村	ベウサル九段
4月25日	シェア「住民主体の健康づくりを目指して」	東村	JICA地球ひろば
5月2日	日本ファンドレイジング協会「準認定ファンドレイザー研修」	高橋	日本財団
5月25日	ダイアローグインザダーク(ビジネスワークショップ)	根本	神宮前レーサムビル
5月28日	日本ファンドレイジング協会・ファンドレイザー講習	高橋	日本財団
6月1日	東京都「NGOの組織強化」研修	東村	町田市
6月20日	UNHCR「全日本で考える第3国定住」シンポジウム	山木・理慧	国連大学
6月22日	東京都「NPO法人組織力アップ」研修	関口	町田市
7月4日	JANIC人材育成研修・オリエンテーション(～5日)	正治・根本	JICA地球ひろば
7月20日	JICA/PCM研修	吉岡・多田	JICA仙台
8月2日	東京都「公正な人事評価を旨として」研修①～③	根本	東京都労働相談センター
8月4日	アジア障害者問題研究会	伊藤・関口	中西自宅
8月8日	AAR「ミャンマーでの障害者を取り巻く環境と支援」報告会	吉岡・原	AAR
8月9日	セミナー「ザンビアの村落形成」SOMAPプロジェクトの挑戦	山木	JICA地球ひろば



液肥取出槽

8月15日	JICAアドバイザー派遣報告会	高橋・山木	JICA地球ひろば
8月17日	日本財団「NPOマーケティング研修」	高橋	日本財団
9月1日	FASID/PCM研修(～2日)	原	JICA横浜
9月4日	JICA人材育成研修	正治	JICA地球ひろば
	JANICセミナー「よりよい活動の実践」ワークショップ	原・吉岡	アパコビル
10月2日	スフィアプロジェクト説明会	山木	ADRA
10月5日	国際協力NGOインパクト評価研修会	山木	国際開発センター
10月12日	ヒューマンライツナウセミナー	関口	六本木ヒルズ
10月13日	JPFミャンマーWG会合と勉強会	大津・吉岡	NICCO東京事務所
	JETRO主催PCM研修(～14日)	原	JICA仙台
	地球環境基金交流発表会(～14日)	伊藤	サンシャインビル
10月18日	日本財団 少数民族支援会議	関係者全員	日本財団
10月26日	ビルマの民主化・人権状況を国境越しに見る	関口	TMI総合法律事務所
11月3日	長期スタディープログラム／UNHCRフィリピン研修(～2月28日)	山木	UNHCRマニラ
11月10日	埼玉・霜里農場視察(バイオガス活用)	伊藤	霜里農場
11月28日	立教大学インターン報告会	関口	立教大学
12月7日	JANICセミナー「NGOのための労務管理講座」	高橋	早稲田奉仕園



霜里農場でバイオガスコンロの実験



一時帰国したBAJスタッフの報告会では、現場の様子がよく分かる

(2)受賞

①エコジャパンカップ元気大賞

社団法人環境ビジネスウィメンが企画するエコジャパンカップでは、BAJベトナムの「誇りを持てる環境循環型の村づくりの実践」が、「ライフスタイル部門・市民が創る環境の町“元気大賞2012”」の奨励賞を受賞しました。



授賞は数十団体にのぼり、華やかで盛大な授賞式でした

②かめのり賞

公益財団法人かめのり財団は、交換留学、文化・スポーツの青少年交流、語学教育など、日本とアジア・オセアニアの相互理解に貢献した個人や団体を表彰しています。BAJは第6回かめのり賞を受賞しました。



かめのり財団は若い人たちによる交流を進めています

IV 海外事業の支援

(1)物資の調達

ミャンマー関連では、新たに3名の日本人駐在員を配置し、調達ではヤンゴン事務所を通じて7件、修理依頼が1件と多くはありませんでした。

ベトナムはフエ事務所を通じて8件の依頼があり、内容は水質検査キットや培養セットなどでした。

(2)専門家の派遣

ミャンマーのマグウェ事務所について、新規に立ち上がった井戸掘削チームを対象に、掘削機のメンテナンスおよび掘削技術指導の目的で、日本の専門家である工藤信一さんを1月14日～2月10日の期間、現地に派遣して指導を受けました。



経験豊かな工藤専門家による掘削チームへの指導、真剣です

(3)ローカルスタッフの招へい研修

BAJミャンマーの南東国境地域のスタッフ2名を招へいし、4月10日～16日の期間、日本での研修を実施しました。招へいしたのは、ネイザーアウン(ベイ事務所)、ピソナム(モーラマイン事務所)の2名で、水供給事業に関連する企業や市民団体グループなどを訪問しました。



ミャンマーからやってきた研修生2名、機器の説明を受けています

2012 年会計報告

活動計算書 (自2012年1月1日～至2012年12月31日)

【経常収益】

		(単位：円)	
1. 受取会費(注1)		1,830,000	1,830,000
2. 受取寄付(注2)		33,480,635	33,480,635
3. 受取助成金等	受取助成金(注2)	100,331,232	216,465,336
	受取補助金(注3)	116,134,104	
4. 事業収益		8,995,613	8,995,613
5. その他収益		4,398,060	4,398,060
経常収益計(A)		265,169,644	

【経常費用】

		(単位：円)	
1. 事業費	人件費	60,747,131	239,914,617
	その他経費	179,167,486	
2. 管理費	人件費	27,117,332	40,562,949
	その他経費	13,445,617	
経常費用計(B)		280,477,566	
当期正味財産増減額(A)-(B)		-15,307,922	
前期繰越正味財産額(C)		72,933,177	
次期繰越正味財産額(A)-(B)+(C)		57,625,255	

注1 受取会費内訳	(単位：円)
個人会費	1,440,000
団体会費	390,000
受取会費計	1,830,000
注2 受取寄付・受取助成金内訳	(単位：円)
BAJ一般	5,801,909
まるごとサポーター	1,210,000
ミャンマー	70,890,266
ベトナム	2,648,196
輝けアジアの子ども基金(ベトナム)	1,116,000
東日本大震災	52,145,496
受取寄付・受取助成金計	133,811,867
注3 受取補助金内訳	(単位：円)
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	
・ミャンマー/ラカイン州における技術ワークショップ及びインフラストラクチャー事業	59,681,401
・ミャンマー/南東地域における復興・給水施設建設事業	52,418,913
独立行政法人環境再生保全機構	
・ベトナム/フエ市における小規模農家を対象としたバイオガスダイジェスター普及事業	2,578,635
外務省	
・インターン・プログラム制度	679,185
・長期スタディプログラム	755,970
東京都	
・両立支援推進援助費	20,000
受取補助金計	116,134,104

※主な寄付先は「国内活動報告1認定NPOと資金の調達(1)資金調達」にある表をご参照ください。

事業別損益の状況

科目	ラカイン州 北部地域 開発事業	ラカイン州 学校校舎建設と コミュニティ開発	中央乾燥地域に おける生活用 水供給事業	南東国境事業	デルタ地域 サイクロン被災地 復興支援事業	ベトナム事業	国内事業	事業部門 合計	管理部門	合計
I 経常収益										
1受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,830,000	1,830,000
2受取寄付金	5,183,886	5,183,886	13,430,142	337,649	0	2,544,897	1,790,545	23,531,624	9,949,011	33,480,635
3受取助成金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取助成金	0	0	12,554,947	0	0	383,511	50,087,707	99,721,232	610,000	100,331,232
受取補助金	59,681,401	59,681,401	0	52,418,913	0	2,578,635	0	114,678,949	1,455,155	116,134,104
4事業収益	1,285,373	1,285,373	129,601	18,922	0	4,792,603	304,464	7,325,342	1,670,271	8,995,613
5為替差益	0	0	0	0	0	0	0	0	4,365,268	4,365,268
6その他収益	9,036	9,036	0	124	0	9,509	0	18,669	14,123	32,792
経常収益計	66,159,696	66,159,696	26,114,690	52,775,608	0	10,309,155	52,182,716	245,275,816	19,893,828	265,169,644
II 経常費用										
(1)人件費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
給与手当	21,506,239	21,506,239	6,658,387	16,004,974	0	8,006,002	5,343,141	60,747,132	18,875,237	79,622,368
法定福利費	0	0	0	0	0	0	0	0	5,912,702	5,912,702
退職給付費用・退職共済掛金	0	0	0	0	0	0	0	0	2,329,393	2,329,393
人件費計	21,506,239	21,506,239	6,658,387	16,004,974	0	8,006,002	5,343,141	60,747,132	27,117,332	87,864,463
(2)その他経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
資機材費	48,496,100	48,496,100	16,902,962	19,778,974	0	1,163,590	44,388,374	131,106,093	0	131,106,093
広報印刷費	4,743	4,743	1,845	3,821	0	9,411	429,489	452,076	2,376,470	2,828,546
旅費交通費	1,635,518	1,635,518	1,652,501	5,036,905	0	1,404,733	1,284,166	11,204,551	1,744,788	12,949,338
通信運搬費	2,115,067	2,115,067	584,524	1,221,132	24,284	326,931	272,280	4,605,185	980,658	5,585,843
消耗品費	1,618,748	1,618,748	487,870	1,194,839	0	105,612	163,672	3,585,650	1,268,267	4,853,917
修繕費	7,564,337	7,564,337	1,145,980	5,643,428	0	0	0	14,386,416	0	14,386,416
賃借料	1,354,639	1,354,639	526,982	4,425,967	39,647	1,307,899	0	7,644,459	4,773,140	12,417,599
減価償却費	0	0	777,873	0	0	0	512,846	1,290,719	0	1,290,719
保険料	1,010,769	1,010,769	290,913	687,905	0	361,110	187,120	2,687,923	196,790	2,884,714
調査研究・研修費	50,078	50,078	23,817	309,865	0	164,535	0	552,610	136,310	688,920
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0	482,260	482,260
租税公課	0	0	0	0	0	0	45,000	45,000	7,600	52,600
法人税等	0	0	0	0	0	0	0	0	70,000	70,000
支払手数料	194,001	194,001	102,611	71,537	0	27,910	11,292	423,042	382,067	805,109
為替差損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑費	32,974	32,974	514,232	155,855	0	0	476,700	1,183,763	1,027,267	2,211,030
その他経費計	64,076,974	64,076,974	23,012,109	38,530,228	63,931	4,871,731	47,770,939	179,167,486	13,445,617	192,613,103
経常費用計	85,583,213	85,583,213	29,670,495	54,535,202	63,931	12,877,733	53,114,080	239,914,617	40,562,949	280,477,566
当期経常増減額	-19,423,516	-19,423,516	-3,555,806	-1,759,594	-63,931	-2,568,578	-931,364	5,361,199	-20,669,121	-15,307,922

貸借対照表 (2012年12月31日現在)

【資産の部】

(単位：円)

流動資産	現金預金	現金	352,052	143,133,825
		流動性預貯金	95,708,527	
		ミャンマー現預金	41,388,640	
		ベトナム現預金	4,475,005	
	棚卸資産	商品	0	
		立替金	50,378	
		未収入金	678,533	
その他流動資産	前払金	9,411		
	仮払金	471,279		
	機械装置	771,109		
	車両	1,410,328		
固定資産	有形固定資産			3,495,725
	投資その他の資産			
資産合計				146,629,550

【負債の部】

(単位：円)

流動負債	未払金	425,806	85,086,780
	未払法人税	70,000	
	未払消費税	0	
	前受会費	120,000	
	前受寄付金	6,000	
	前受助成金	62,441,649	
	前受補助金	3,042,739	
	預り金	1,136,681	
固定負債	仮受金	17,843,905	3,917,515
負債合計			89,004,295

【正味財産の部】

(単位：円)

前期繰越正味財産	72,933,177
当期正味財産増減額	-15,307,922
正味財産合計	57,625,255
負債及び正味財産合計	146,629,550

監査報告書

特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン (BAJ) の2011年度の決算について、事業は適切に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、会計原則に基づいて作成され、監査の結果、相違ないことを認めます。

2012年 2月 26日

監事 高塚直子

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日NPO法人会計基準協議会 2011年11月20日一部改正)によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 引当金の計上基準

・退職給付引当金

スタッフの退職給付に備えるため、就業規則に基づく期末自己都合支給額から中退共制度の支給見込額を控除した団体負担見込額を計上しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税は税込経理によっています。

2. 使用等が制約された寄附金等の内訳

(単位：円)

内容	前期繰越	当期受入額	当期減少額	期末残高	備考	前受補助金/助成金及び未収助成金・事業期間
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・ラカイン州北部における経済ワーキンググループ及びインフラストラクチャー事業(2012)	576	59,252,528	59,253,104	0	420,385	事業期間 2012/1/1~2012/12/31
国連難民高等弁務官事務所/ミャンマー・南東地域における復興・給水施設建設事業(2012)	2,319,909	55,041,267	57,361,176	0	2,622,354	事業期間 2012/1/1~2012/12/31
独立行政法人環境再生保全機構・地球環境基金/ベトナム・フナビにおける小規模農業を対象とした「バイオガスバイオエタノール」事業(2012-2013)	0	892,000	1,570,533	0	-678,533	事業期間 2012/4/1~2013/3/31
株式会社LIXIL/ベトナムにおける環境教育(2012-2013)	0	1,500,000	1,500,000	0	192,225	事業期間 2012/4/1~2013/3/31
フタバエデュケーション株式会社/ミャンマー・中央乾燥地域における生活用水供給事業(2012-2013)	0	7,500,000	7,185,888	314,112	0	事業期間 2012/4/1~2013/3/31
道庁発表/ミャンマー・中央乾燥地域における生活用水供給事業(2013)	0	5,000,000	1,250,000	3,750,000	0	事業期間 2013/1/1~2013/6/30
日本財団/ラカイン州学校校舎建設とコミュニティ開発事業	0	90,070,677	90,070,677	0	51,814,256	事業期間 2012/9/1~2013/8/31
プラン・ジャパン/中央乾燥地域生活用水供給事業	0	7,663,378	7,663,378	0	6,369,810	事業期間 2012/12/6~2013/6/30
Give2Asia/岩手県の仮設住宅等の住民のための「コミュニティ・スペース」運営事業	0	17,170,942	17,170,942	0	924,252	事業期間 2012/4/15~2013/3/31
ジャパン・プラットフォーム(JPF)/ミャンマー マグウェ地区セパルンにおける洪水被害者のための緊急物資配布事業	0	11,895,025	11,895,025	0	633,646	事業期間 2012/1/18~2012/3/31
ジャパン・プラットフォーム(JPF)/岩手県大迫町の仮設住宅等に住民生活支援を目的とした多目的コミュニティセンターの運営と支援(「アジアのつなぐ」の取組)	0	34,347,800	34,347,800	0	506,783	事業期間 2012/2/11~2012/10/12
トヨタ財団/小夜子人プログラム「アジアにおける橋-未来への取組」	0	1,830,000	1,830,000	0	1,220,000	事業期間 2012/11/1~2013/10/31
外務省/長期スタディプログラム	0	755,970	755,970	0	127,742	事業期間 2012/11/3~2013/2/23

3. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

科目	財務諸表に計上された金額	うち役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
受取会費	1,830,000	100,000
受取寄付金	33,480,635	729,624
管理費 賃借料	7,644,459	960,000
合計	42,955,094	1,789,624

(単位：円)

4. 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価格	取得	減少	期末取得価格	減価償却累積額	期末帳簿価格
(有形固定資産)						
機械装置	15,422,173	0	0	15,422,173	14,651,064	771,109
井戸掘削機		0	0			
車両	2,051,385	0	0	2,051,385	641,057	1,410,328
東日本大震災事業		0	0			
合計	17,473,558	0	0	17,473,558	15,292,121	2,181,437

(単位：円)



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-39-3ビジネスタワー4F

TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395

E-mail:info@baj-npo.org http://www.baj-npo.org/

郵便振替口座 00130-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン

